

タイトル：「平成 26 年度稲発酵粗飼料現地研修会」が開催されました。

- 1 日 時：平成 26 年 10 月 2 日（木）
- 2 場 所：中津川市蛭川 蛭川公民館（蛭子座）、及びWCS用稲栽培ほ場
- 3 内 容：

稲発酵粗飼料（以下稲WCSという）は、飼料自給率の向上、農地の保全・利用、農業機械の有効活用、耕畜連携の推進のため水田を活用した飼料作物生産の重要な柱となっている。

そのような中、既成品種より多収性があり、TDN収量が高く、繊維の消化性に優れ、茎葉中の糖含量が高いという特徴を持つ稲WCS専用品種「たちすずか」を推進し、その優位性を明らかにし、既存の品種から「たちすずか」への品種転換を促すことにより、稲WCSの品質向上を図ることを目的に、中津川市蛭川において、平成 26 年度稲発酵粗飼料現地研修会が開催されました。

研修会は岐阜県、岐阜県農業再生協議会、（一社）日本草地畜産種子協会、東海地域飼料増産推進協議会の共催で開催され、岐阜県を中心に、東海 3 県の行政、試験研究機関、普及、関係団体、農家等約 90 名が参加されました。

現地水田で「たちすずか」の生育状況の確認後、場所を東濃地域で盛んな「地歌舞伎」の行われる「蛭子座」へ会場を移し、東海 3 県での栽培状況の報告、岐阜県畜産研究所酪農研究部の浅井専門研究員による「たちすずか」の稲WCS消化試験や多給試験の発表が行われ、既存品種に比べ、サイレージ品質の良さ、嗜好性の良さ、産乳性の優位性などが報告され、参加者は「たちすずか」などの茎葉型の稲WCS専用品種の優位性を再認識されていました。



WCS 用稲「たちすずか」栽培ほ場での研修状況